

第4回 南阿波定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議要旨

【日時】

令和2年2月5日（水） 午後2時から午後3時30分まで

【場所】

阿南市役所602・603会議室

【出席者】

出席委員：荒井義之委員、笠原まり委員、川人建介委員、上月康則委員、酒井勝利委員、高島武夫委員、多田博夫委員、長久生實委員、鶴和正浩委員、濱田勝幸委員、林孝一委員、福岡久美子委員、古野司委員、松谷隆文委員、向山篤宏委員、紋田正富委員、山原鐵雄委員（17人）

欠席委員：網干和義委員、一山稔委員、岸彰委員、兒戸大佐委員、長谷宏昭委員、湯浅隆幸委員、湯浅眞智子委員、渡邊幸江委員（8人）

オブザーバー：那賀町総務課、美波町政策推進課、牟岐町総務課、海陽町まち・みらい課

阿南市：表原市長、各担当者部会（部会長・副部会長）

事務局：阿南市企画政策課

1. 開会（事務局）

- ・午後2時開会

2. 阿南市長あいさつ（表原阿南市長）

（表原市長あいさつ）

・約3年ぶりの開催となるが、ビジョンの計画期間5年の中間の年ということで、これまでの取組状況の御報告をさせていただき、委員各位には残り2年のさらなる取組の推進のため御意見をいただきたい

・昨年12月1日現在の圏域の推計人口が9万6千97人と、平成27年国勢調査人口から約6千人、率にして5.8パーセント減少しており、人口減少抑制への対策とともに、人口減少社会に対応した生活基盤の確立が急務である

・具体策の一つとして、圏域の地域医療の要である阿南医療センターについて、医師確保に対する支援を共生ビジョンの重点施策として位置付け、地域医療体制の確保・充実を図りたい

・他の広域的な取組との重複や整合性、職員数の減や行政需要の多様化に伴うマンパワー不足、財政面等、定住自立圏構想推進における課題も生じてきた中で、これまで以上に圏域における課題の共有やニーズの把握に努めるとともに、事業の洗い出し等や優先度の精査等により、限られた財源や人的資源をより効果的に投入する必要がある

ると考えている

・本日の懇談会での中間評価や御意見等を踏まえ、残りの計画期間における事業のブラッシュアップを行うとともに、次期共生ビジョン策定における、より実効性の高い取組の推進に向けて、合意形成を図りながら、持続可能な定住自立圏の形成のため、県南を牽引する中心市としての役割を果たしていきたい

3. 委員自己紹介

- ・出席委員による自己紹介
- ・欠席委員の報告

4. 会長及び副会長の選任

・会長については、懇談会設置要綱の規定に基づき、委員の互選により、徳島大学教授の上月康則氏に決定

(上月会長あいさつ)

- ・皆さまの町でも様々な課題を抱えていると同時に、それぞれの町にしか無い多くの魅力がある
- ・力を合わせて一つになることにより、より多くの解決につながっていく、そういうことが議論できる会議にするためにも、限られた時間ではあるが忌憚のない意見をいただきたい

・副会長については、懇談会設置要綱の規定に基づき、上月会長の指名により、阿南工業高等専門学校副校長の多田博夫氏に決定

5. 議 事

(1) 南阿波定住自立圏共生ビジョンの取組状況及び変更について

①南阿波定住自立圏共生ビジョンの取組状況について【事務局説明】

<質疑応答等>

(委 員)

事業No.18(高速自動車道整備促進事業)について、要望をすることが目標ということだけで終わってしまっていないか。阿南への進捗の度合いからすれば大幅に遅れており、目途が立たないという中で要望の回数をいくら重ねても実際の進捗が無いというのがあるにもかかわらずA評価となっている。目標の設定上そうだから、これ以外評価のしようがないというのは理解できるが、本来の自動車道整備の進捗の度合いも含めた上での評価に結び付けていくべきではないか。

(事務局)

K P I については、平成 2 8 年度ビジョン策定後に国の要綱改正があり急遽設定した。計画策定後の後付けとなった点や、定量的な指標設定を求められたことなどから、K P I 設定には苦慮したと記憶している。事業によっては K P I を設定しないとする 것도可能だったが、全体のバランスとして、その時点では可能な限り数値目標を設定することとした。要望活動の回数を重ねることによる、主目的は道路の整備促進を図ることであるという認識は当然持っている。

(委員)

本事業は、これまで県南域の自治体で強く結び付いて進めてきた事業である。今まで以上に強く進めて、事業の進捗として次につながるようお願いしたい。

(会長)

目的とそれを表す指標が一致していないとの意見である。そうしたものについては、何かしらの工夫がなされてもいいのではないか。

(副会長)

No. 1 1 (産学官連携企業誘致等促進事業) について、まずはお詫びしたい。阿南高専も関わりのある事業だが C 判定である。現在の阿南高専は地方創生の取組として、徳島大学を中心にリカレント教育、地元の企業との連携による取組を実施している。地元社員や学生の力をつける取組を推進しており、地元就職者の増加数や新商品開発の売り上げ等について K P I が設定されている。昨年から 1 0 年計画で取り組んでおり、農林水産、介護福祉分野については動きが少し鈍いところがあるが、メインは日亜化学との連携による光産業の育成として活動している。今年度の後期から、地元の企業からも社員さんが 2 0 数人本校で週 1 回教育を受けているほか、来年実習工場の改修が終わり、サロンとして地元の方に開放することで一緒になって勉強や商品開発等を連携して取り組みたいと考えている。本事業とも密接な関係があり、現在水産関係で実績が少し出てきている。美波町が中心となってサテライトオフィスを推進しているが、本校も様々な I T サテライトとお付き合いがあり、この辺りを K P I 達成につなげられるよう今後も頑張っていきたい。

1 0 番 (企業誘致広域プロジェクト事業) については、やはり企業誘致フェアへの参加だけではだめではないかと思う。サテライト関連としては映画の制作も行われたが、どれだけバックアップをし、企業誘致をできるか。高専の中にも市が整備したインキュベーションセンターあるが 1 室空いている、中央の企業のサテライトを誘致したいと考えている。

(会 長)

指摘もあったが、No.10についても、参加しているだけではどうかという意見であった。これについても、少し対策があるといいと思う。ほかに御意見は。

(委 員)

No.28(阿南市消費生活センターの周知及び利用推進事業)の相談件数の実績の積算はどのように算出しているか。

(事 務 局)

阿南市の相談件数を除いた、圏域町の方の相談件数として計数している。KPIごとに集計範囲が異なり、わかりにくい部分もあるかと思うが、センターが阿南市単独でスタートした事業であることから、圏域で取り組むことによって、町の方の相談をどれだけ受け入れられるかとうことを成果指標としている。

(委 員)

県内で窓口が多く開設されているが、県南は相談窓口が1箇所しかないという意見や、住民のすぐ隣にあるとういうことが果たせていないという意見もある。相談件数の内容については了解した。

(委 員)

先日阿南市、那賀町、海部郡で合同での防災訓練を行った際、No.12の竹資源等有効活用推進事業に関して仮設トイレの脱臭等での利活用について話があったが、このことについて伺いたい。

(副 会 長)

別の用途での動きもある。バンブーケミカルや藤崎電機で竹を細かいチップにする取組をしており、工業短大の方でそれをディーゼルエンジンの中に入れて竹粉エンジンに活用するなどの研究が進んでいる。要望としては、竹粉で例えばエンジンが回る、バスが動くというところを目指しているが、そうしたものを啓発・啓蒙として目に見える形の中で、竹粉がこれだけ有効に使えるんだよっていうことを阿南市から発信してもらえたらありがたい。

(事 務 局)

竹パウダーの件ですが、平成30年度に阿南市では地方創生の交付金等を活用し宝の山

推進事業を実施している。具体的には竹パウダーの利活用の推進ということで、K P I についても30年度に118tという活用実績があるが、内容としてはパウダー化したものを防災トイレ用の備蓄や残飯の堆肥化に活用した。今年度もパウダーの実証実験として、ユズの搾りかすの処理として配合して堆肥化、たけのこ圃場や水稻圃場への散布等に取り組んでおり、詳細はこの場で御説明しかねる部分もあるが、お尋ねの件については本事業における竹パウダー利活用の取組に関連しているのではないかと思われる。

(委 員)

今後においても防災面で役立てるような取組をお願いしたい。

(会 長)

取組の内容と指標が実態があっていないのではないかと指摘については、今後の取り扱いには十分な配慮をいただきたい。

2つめの議題について

(1) 南阿波定住自立圏共生ビジョンの取組状況及び変更について

②南阿波定住自立圏共生ビジョンの変更について(事務局説明)

< 質疑応答等 >

なし

(会 長)

ビジョン変更案に従って着実に進めていただきたい。

6. その他

- ・懇談会委員任期と今後の予定について事務局から説明

7. 閉 会

(上月会長あいさつ)

- ・委員の皆さんから多くの貴重な御意見をいただいたが、これらの御意見をビジョンに反映し、残り2年間の取組を着実に進めてほしい